



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月13日

上場会社名 株式会社ミダックホールディングス 上場取引所 東名
コード番号 6564 URL <https://www.midac.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加藤 恵子
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部長 (氏名) 高田 廣明 TEL 053-488-7173
配当支払開始予定日 一
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	8,589	6.3	3,372	2.7	3,334	4.0	2,024	△0.8
2025年3月期第3四半期	8,083	17.2	3,282	33.9	3,206	33.6	2,040	63.0

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 2,023百万円 (△0.8%) 2025年3月期第3四半期 2,040百万円 (63.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	73.15	73.13
2025年3月期第3四半期	73.77	73.77

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	36,659	17,149	46.7
2025年3月期	28,492	15,452	54.1

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 17,106百万円 2025年3月期 15,413百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 14.00	円 銭 14.00
2026年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 18.00	円 銭 18.00
2026年3月期（予想）					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
	11,617	6.5	4,792	5.7	4,700	5.6	2,930	2.4	105.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有
新規 1社 (社名) 大平興産株式会社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	27,773,500株	2025年3月期	27,773,500株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	93,272株	2025年3月期	115,322株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	27,669,403株	2025年3月期3Q	27,658,178株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「1. 当四半期決算に関する定性的情報」、P3「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、設備投資や個人消費などの内需が底堅く推移するなど景気は緩やかな回復基調であるものの、米国のトランプ政権による関税政策や中東・ウクライナでの紛争など海外情勢の混迷、物価上昇の影響などにより、国内外の景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況下、当社グループはミダックグループ10年ビジョン『Challenge 80th』の実現に向けた第1次中期経営計画のもと、「成長加速のための基盤づくり」のため、既存事業の収益力強化に努めてまいりました。

まずオーガニックグロースにおいては、管理型最終処分場「奥山の杜クリーンセンター」を中心とした廃棄物受託量の拡大に努め、新規大口案件の受託や既存取引先との取引量の拡大により、廃棄物受託量は増加しました。また、同地域内にある管理型最終処分場「遠州クリーンセンター」及び安定型最終処分場「浜名湖クリーンセンター」につきましても、両最終処分場共に埋立容量の増量が完了し、供用を開始しております。

M&Aグロースについては、遠州碎石株式会社において前期の収益向上に貢献した奥山の杜クリーンセンターの第2～第4期工事で排出される残土の受入れが無かつたことから減収となりました。また、最終処分場における戦略的M&Aの一環として、2025年4月に子会社化した千葉県内で管理型最終処分場を運営する大平興産株式会社について、第2四半期連結会計期間から損益計算書に連結しております。大平興産株式会社は中長期的な最終処分場の増量に向けて第三処分場第七堰堤工区工事中のため廃棄物の搬入制限を継続しておりましたが、11月より搬入を再開しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,589百万円（前年同期比6.3%増）、営業利益は3,372百万円（同2.7%増）、経常利益は3,334百万円（同4.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,024百万円（同0.8%減）となっており、第3四半期の売上高、営業利益、経常利益において過去最高を更新しました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 廃棄物処分事業

最終処分場においては、旺盛な埋立需要を背景に最終処分場における廃棄物受託量が増加しました。また、焼却施設を中心とした中間処理施設においても、既存取引先からの受託量は安定的に推移しました。以上の結果、売上高は6,945百万円（同9.8%増）となり、セグメント利益は3,832百万円（同6.5%増）となりました。

② 収集運搬事業

産業廃棄物においては、取引先に対する価格転嫁を進めたことで、前期並みの売上を確保しました。一般廃棄物においては、スポット案件の受託などにより株式会社フレンドサニタリーは前期並みの売上を確保しました。株式会社ミダックライナーについては飲食店を中心とした新規開拓に注力した結果、受託量は前期よりも増加しました。以上の結果、売上高は1,483百万円（同1.3%増）となり、セグメント利益は393百万円（同6.4%増）となりました。

③ 仲介管理事業

大口案件の獲得により、協力会社への仲介は好調に推移しました。以上の結果、売上高は114百万円（同20.3%増）となり、セグメント利益は82百万円（同22.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は6,591百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,013百万円減少しました。これは主に、現金及び預金の減少額3,667百万円等によるものであります。また、固定資産は30,067百万円となり、前連結会計年度末に比べ11,180百万円増加しました。これは主に、最終処分場等有形固定資産の増加額7,670百万円、のれん等無形固定資産の増加額2,441百万円等によるものであります。

この結果、総資産は、36,659百万円となり、前連結会計年度末に比べ8,166百万円増加しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は4,315百万円となり、前連結会計年度末に比べ322百万円増加しました。これは主に、未払金の増加額413百万円等によるものであります。また、固定負債は15,194百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,146百万円増加しました。これは主に、最終処分場維持管理引当金の増加額3,406百万円、長期借入金の増加額2,720百万円等によるものであります。

この結果、負債合計は、19,510百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,469百万円増加しました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は17,149百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,697百万円増加しました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益2,024百万円を計上したこと等による利益剰余金の増加額1,636百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月15日付の「2025年3月期 決算短信」にて公表しました連結業績予想から修正はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,115,702	4,448,609
受取手形及び売掛金	1,129,335	1,306,542
棚卸資産	82,930	104,600
その他	280,222	736,757
貸倒引当金	△2,976	△4,855
流動資産合計	9,605,214	6,591,656
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	982,680	956,537
機械装置及び運搬具（純額）	810,970	769,850
最終処分場（純額）	4,683,563	9,915,820
土地	5,226,940	6,444,651
建設仮勘定	4,274,086	5,572,947
その他（純額）	78,910	67,967
有形固定資産合計	16,057,152	23,727,776
無形固定資産		
のれん	952,691	3,249,764
施設設置権	40,100	10,024
その他	126,108	300,967
無形固定資産合計	1,118,899	3,560,757
投資その他の資産		
投資有価証券	255,064	255,416
繰延税金資産	652,223	575,499
その他	804,355	1,948,266
投資その他の資産合計	1,711,644	2,779,183
固定資産合計	18,887,696	30,067,716
資産合計	28,492,911	36,659,372

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	35,475	57,708
短期借入金	1,290,000	1,290,000
1年内返済予定の長期借入金	960,522	1,052,068
未払法人税等	677,721	463,920
未払金	472,294	885,725
賞与引当金	148,640	79,241
その他	408,721	486,907
流動負債合計	3,993,375	4,315,571
固定負債		
社債	200,000	230,000
長期借入金	6,872,794	9,593,245
繰延税金負債	87,678	71,484
退職給付に係る負債	52,066	71,012
役員退職慰労引当金	758,000	—
最終処分場維持管理引当金	938,943	4,345,825
特別修繕引当金	—	758,509
資産除去債務	112,571	112,597
その他	25,455	11,799
固定負債合計	9,047,509	15,194,473
負債合計	13,040,885	19,510,044
純資産の部		
株主資本		
資本金	90,000	90,000
資本剰余金	4,923,132	4,959,442
利益剰余金	10,504,329	12,141,139
自己株式	△103,572	△83,769
株主資本合計	15,413,889	17,106,813
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△472	△808
その他の包括利益累計額合計	△472	△808
新株予約権	38,609	43,323
純資産合計	15,452,026	17,149,328
負債純資産合計	28,492,911	36,659,372

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	8,083,859	8,589,906
売上原価	3,076,587	3,249,908
売上総利益	5,007,271	5,339,997
販売費及び一般管理費	1,724,478	1,967,531
営業利益	3,282,793	3,372,466
営業外収益		
受取利息	1,716	6,693
不動産賃貸料	6,295	6,961
固定資産売却益	7,910	60,476
その他	10,176	10,587
営業外収益合計	26,098	84,719
営業外費用		
支払利息	84,010	105,707
その他	17,901	16,805
営業外費用合計	101,911	122,513
経常利益	3,206,980	3,334,672
税金等調整前四半期純利益	3,206,980	3,334,672
法人税等	1,166,667	1,310,647
四半期純利益	2,040,312	2,024,024
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,040,312	2,024,024

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	2,040,312	2,024,024
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	105	△335
その他の包括利益合計	105	△335
四半期包括利益	2,040,417	2,023,688
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,040,417	2,023,688

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年6月27日開催の取締役会決議に基づき、2025年7月25日付で譲渡制限付株式報酬として自己株式15,600株の処分を行いました。また、2025年9月18日開催の取締役会決議に基づき、2025年10月17日付で譲渡制限付株式報酬として自己株式5,850株の処分を行いました。その結果、新株予約権の権利行使を含め、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が19,803千円減少しました。以上の結果、当第3四半期連結累計期間末における自己株式が83,769千円となっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	525,653千円	569,684千円
のれんの償却額	200,983	265,036

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自2024年4月1日 至2024年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	廃棄物処分	収集運搬	仲介管理	計			
売上高 顧客との契約から 生じる収益	6,325,727	1,464,547	94,966	7,885,242	198,617	—	8,083,859
外部顧客への売上高 セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,325,727 261,174	1,464,547 7,226	94,966 23,942	7,885,242 292,343	198,617 444	— △292,788	8,083,859 —
計	6,586,902	1,471,774	118,909	8,177,585	199,062	△292,788	8,083,859
セグメント利益	3,597,745	370,014	67,490	4,035,249	96,830	△849,286	3,282,793

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益の調整額△849,286千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自2025年4月1日 至2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	廃棄物処分	収集運搬	仲介管理	計			
売上高 顧客との契約から 生じる収益	6,945,618	1,483,472	114,258	8,543,349	46,556	—	8,589,906
外部顧客への売上高 セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,945,618 267,940	1,483,472 6,499	114,258 24,525	8,543,349 298,965	46,556 2,621	— △301,586	8,589,906 —
計	7,213,559	1,489,972	138,783	8,842,314	49,178	△301,586	8,589,906
セグメント利益又は セグメント損失(△)	3,832,743	393,837	82,953	4,309,534	△37,553	△899,514	3,372,466

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△899,514千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「廃棄物処分」セグメントにおいて、当第3四半期連結累計期間において大平興産株式会社の全株式を取得し、新たに連結の範囲に含めたことから、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、2,562,109千円であります。

なお、のれんの金額は当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。